



広報 なかわだ

10月の予定

第393号

教会委員会	10月14日(日)
信徒の会 例会	10月21日(日)
子どもと共に捧げるミサ	10月28日(日)
バザー	10月28日(日)



2012年10月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

2012年10月7日

St Francis of Assisi (Cigoli 1597-1599)

アシジの聖フランシスコの生涯

主任司祭 小林 陽一



1182年、フランシスコはイタリアのアシジに生まれました。父は織物屋でした。フランシスコの生活は物質的に恵まれ、ラテン語、フランス語を学び、友人からももてはやされ、お金は使い放題でした。19歳のとき、軍隊に入りましたが、戦に負けて、捕虜として一年間ペルシアに抑留されました。抑留生活から解放された1203年に重病となり、神に心を向けて、死後のこと、人生の問題について考えるようになりました。

ある時、フランシスコは、半ば壊れかかった聖ダミアノ教会の聖堂でひとり祈っていると、十字架から声が聞こえてきました。「フランシスコ、早く来て私の家を修繕しなさい。今にも倒れそうだから」。フランシスコは、キリスト様はきっとこの聖ダミアノ聖堂のことを言っておられると思い、聖堂の修理に取りかかりました。そして、フランシスコは修道生活を営むようになり、併せて、ハンセン氏病にかかった方の看護やアシジの町内外の聖堂の修理にあたりました。

1209年2月、ポルチュンクラの聖堂でのミサの最中に、「金銀の銅貨を自分の帯に入れてはならない。旅行袋を持たず、重ね着もせず、履き物をはかず、杖ももってはならない。(マタイ10章9,10節)」という言葉を見ました。この言葉に感動したフランシスコは、さっそく褐色の粗服をまとい、腰に荒縄をしめて、はだしで説教をいたしました。清貧と愛によって始められたフランシスコの生活は「地の塩、世の光」となって、人々に少しずつ知られるようになりました。一人、二人と同志の者が集まるようになり、フランシスコは弟子を連れてローマに向かいました。ローマで教皇インノセント三世から許可を得て、「小さき兄弟会」、後の「フランシスコ会」と呼ばれる修道会を設立しました。

晩年、フランシスコは、「私の靈魂と肉体にキリストの御受難の苦しみを出来るだけ強く感じさせてください。また、御受難をいとわなかったキリストの愛を出来るだけ深く心に感じさせてください。」と主に申し上げました。その後、目と胃を患ったフランシスコは、痛みのさなかに平和と喜びを体験し、聖痕(せいこん)を受け、1226年10月3日、帰天いたしました。聖フランシスコ・アシジ修道者の記念日は10月4日(木)となっております。



日	曜	典 礼	ミ サ	備 考
5	金		初金ミサ(10時)	掃除
6	土		主日ミサ(18時)	
7	日	年間第27主日	主日ミサ(9時)	ロザリオの祈り(ミサ前)
13	土		主日ミサ(18時)	掃除
14	日	年間第28主日	主日ミサ(9時)	ロザリオの祈り(ミサ前)
20	土			掃除
21	日	年間第29主日	主日ミサ(9時)	ロザリオ、聖堂清掃(C,D)
27	土			バザー準備(10時-)
28	日	年間第30主日	子どもと共に捧げるミサ(9時)	バザー(11時-13時)

恒例の敬老祝賀ミサと祝賀会が開催されました（9月16日）

今年も盛大に、そして楽しく敬老祝賀の催しを開催することが出来ました。
入念な準備を頂いた典礼G、行事Gはじめ関係の皆様、ありがとうございました。



『八月六日の朝ぼくは十四才だった』（長谷川儀(ただし)神父著 女子パウロ会)を読む

原爆投下から六十七年、私は広島、長崎の原爆記念日に長男、三男を出産していることもあり、毎年黙祷を欠かさずしてきた。しかし今夏はたまたま『八月六日の・・・』の感動的な秘話に接し想いを新たにさせられた。同書のごく一部を紹介しながら感想を述べてみたい。

その日、儀少年は広島市内の太田川で友達と泳いでいた。土手に上がるとピカッと閃光が走ったので身を伏せ耳を塞いだが強熱で全身を火傷、皮膚が足先まで垂れていた。

数日経って儀少年の容態は悪化した。往診してくれる医者はいなかった。困り果てていたが、近所の人に「山の上の修練院で親切な外人さん達が大量の人を診てくれますよ」と教えられた。父が訪ねると断られそうになったが呼び止められ、外人先生（アルペ神父、医師）が往診に来て下さりホウ酸で丁寧に消毒して下さいました。しかし終戦により外人先生は外出を控えることになり治療は中断された。家族は精一杯の愛情を注ぎ手当を施すが少年は衰弱していった。

儀少年は「お母さん僕はもうこれ以上生きられそうもない、長い間ありがとうございました」と別れの言葉を口にできるようになった。父も覚悟し、こっそり棺桶と火葬用のマキを用意した。もう一度あの外人先生をお願いして来ていただいたが手の施しようがなく帰られた。それから十分も経った頃、別の赤ら顔の大柄な外人先生が来られ「ここに死にそうなお子はいませんか、お水下さい」と言われた。母がずい分喉が渇いていらっしやるのだと思ってお出しすると「罪の許し、天国を信じますか」と言われた。おぼつかない日本語なので何かのおまじないかと思い、訳も分からず母が代わって「信じます」と答え少年は受洗してしまった。この外人先生は「この子は一週間眠り続けるからそのままに」と強く指示なさった。深い眠りににつき、その後メキメキと快方に向かっていた。この外人先生（ネーベル神父、後に帰化、岡崎祐次郎津和野教会主任司祭）は、後に儀少年と再会した時に次のように語られたとのことである。「あの日不足する食料の調達に出たが目指す方にどうしても足が向かず、不思議な力で儀少年の家の方へ導かれ洗礼を授けたことは覚えています、しかしその他の事は記憶がありません」と。

その後御一家七名全員が受洗され、儀少年は原爆症に悩まされながらも苦難の末、神父様となられ今も広島教区でお働きになっています。まるで聖書の中のイエス様がなされた奇蹟とも思える場面に驚かされます。世の破滅の底でも神様は力を示され、長谷川神父をして後世に再生の力を伝えるようになされたのでしょうか。

今我が国は人災ともいえる原発事故で再び不幸が繰り返されています。戦争や原爆（核）を遠い過去の出来事と風化させず心新たに平和の光を求めていきたいと思えます。

（上野 明子）



サマーキャンプ



(タム神父さまと)



(神父さまと勉強)

伊丹日向子

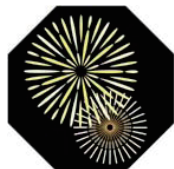
8月10日から12日まで山中湖の星びホールに、サマーキャンプに行きました。神父さまを入れて70人もさんかしていました。

1日目はミサンガで、はん作りをしました。夜には花火やゲームをしました。

2日目は、神父さまにアーメンといういみを教えていただきました。その後は、みんなで山中湖に行きました。夜はゲームや出し物をしました。

3日目は、おへやをかたづけけてかえりました。また、来年も行きたいです。

(注：ミサンガ=糸を編んで作った腕輪)



たけ田優衣 一年生

いちばんたのしかったことは、にだんべつでよるおばけやしきをやりました。すいかわいとはなびもたのしかったです。げきもしました

本庄華

わたしの中で一番楽しかったことは、キャンプファイヤーでやるげきの練習が楽しかったです。井上リーダーが神父さま役をしてくれました。

なぜかリーダーがセリフを言うところがおかしくてたまりませんでした。本番のときも少しわらってしまいましたが、せいこうしました。

わたしはそのとき、てんし役とねこ役をしました。すごくきんちょうしましたが楽しかったです。

お願いとPR

来る28日のバザーの際に、東日本大震災の被災者を支援するコーナーを開きます。

震災後に被災者支援のために立ち上げられた「サンガ岩手」からの手作り品です。仮設住宅で暮らすおばあちゃん達が、生き甲斐として、また少しでも生活の足しにと頑張っています。

復興のきざしはまだまだ遅々として見えませんが、息の長い支援を続けられたらと思います。皆様のご支援をお願い致します。



皆様のご支援
(横塚 郁子)

～ 中和田の国 ～

信仰の自由を求めて 一 家族と共に祈る毎日

星川聖一(トラン・ミン・ハイ)さん、54歳にお話を伺いました。

・ボートピープルとなったのはいつ頃ですか?その時の様子は—

1976年頃、出身地旧サイゴン(現ホーチミン)で神学生(18才)だった頃から教会に対する弾圧が強くなってきて集会ができなくなっていた。1982年、信仰に対する迫害から逃れるため小型ボートで国外に逃げることにした。ボートは縦11.5メートル、横2.5メートル、大人も子供も合わせて65人詰め込んで乗り、沖に出て4日間漂っていたところをパナマ船に助けられた。その船は日本へ砂糖を運んでいたのボートピープルとして入国することができた。

・その後の日本の生活はどうでしたか?—

最初は長崎、大村レセプションセンターで2年間受け入れられたが、日本語を教えられることもなく外に出ることもできず食事を三度するだけの毎日だった。レセプションセンターを出てからはアルバイトなどをして6年ぐらいたった頃、友人の紹介で藤沢(善行)の今の会社を紹介してもらい正社員として働けるようになった。

・日本に住んで大変だったこと、良かったこと—

センターを出て最初の2年間ぐらいは言葉が殆ど分からず苦しかった。当初は給料が安く生活が大変だった。良いことは平和で安全であること。

・子供さんたちにはどんなことが大切と伝えてありますか?—

毎晩、家族全員でロザリオの祈りとマリア様の歌を歌うことを欠かしたことがない。お祈りをした後、家族で話し合い(報告、連絡、相談)をするのでけんかをするのもあまりない。

・中和田教会の皆さんにメッセージはありますか?—

静かで温かな雰囲気教会なのでお祈りしやすい。

若い人が少ないが、夏休みのキャンプをすとか、子供たちが要理の勉強をしたらテストをして点数が良ければ褒美を出したりすれば、子供たちも喜んで教会に来るし、頑張っ勉強するのではないのでしょうか。

バザー委員会からのお知らせ

今年もバザーが近づいてまいりました。教会の資金（建物修繕費積立）集めはもちろんのこと、様々な団体への寄付、そして教会内外の方たちとの楽しい交流の場となることをバザー委員一同願っております。どうか皆様、ご自分のできる範囲内でご協力いただけますようお願いいたします。

◎日時：10月28日（日） 11:00～13:00

△皆さまへのお願い▽

◎手作り品、日用雑貨品（新品）
一家族二点以上のご提供→聖堂出入り口の箱に入れてください。

◎ご寄付いただける方は以下のものを地区代表に直接お渡しください。

- ・バザー券の賞品用の商品券（千円券）
- ・不用品衣料
- ・カレー、ケーキ用のカレールール、小麦粉、上白糖、スティックシュガー、紅茶（個別包装のもの）

◎前日、当日のお手伝い（集會室の壁に一覧表あり！飛び入りも大歓迎！）毎年人手不足で困っております。どうかご協力のほど重ねてよろしくお願ひします。

△お知らせ▽

- ☆販売品値段つけ→10/9（火）10:00～ 弁当持参。（予備日10/10）
- ☆ケーキ作り → 10/25（木）9:00～13:00 於 立場地区センター

（森脇 彰子）



委員会だより

（文中敬称略）

△9月9日（日）12名出席▽

小林神父の話

一人暮らしのお年寄りの方の緊急時の対応について教会として考えたい→普段から家族の方との連絡を良くする。元気な時に教会に対してどうしてほしいか家族に伝えておくことも大切（中島）。

お年寄りのデーターを把握しておく（甲斐）。敬老パーティで緊急連絡先を聞いておくのはどうか（森脇）→災害時の対応も同様で今後検討していく。

・タム神父様（藤沢教会助任司祭）をいつものような形でお呼びできるか考えてほしい。→サマーキャンプに來られた（井上）。ベトナムの信者さんを通して初ミサを打診するのはどうか。（今井）。時間をかけて中和田教会の思いを伝える必要がある（小林神父）。今後方法について検討する。

・ゆるしの秘跡、共同回心式について→参加者が少ないので指導司祭をお呼びしても失礼ではないか？年々少なくなってきた。共同回心式（2007年から）の意味『ゆるしの秘跡を受けることで一人一人が霊的に刷新されると同時に共同回心式を行うことで教会も共同体として霊的に刷新される』を理解してほしい。（小林神父）今後検討課題。

・11月11日、七五三の祝福式 3、4名（総務で対応）

報告事項

映画「夏の祈り」44枚売上金の一部をホームレスのお米購入に充て

る。（中島）

各グループからの報告

● 典礼（大宮（智））

・10月（ロザリオの月）→7、14、21日、ミサ前8:30からロザリオの祈りを3連唱える。

・侍者の低年齢化の現状を踏まえ、大人（男性）の侍者を一人入れた体制にしたいとの要望が要理学校からあり募集しているので協力を願ひしたい。

・主日ミサで使用した「聖書と典礼」は持ち帰りファイルなどとして活用して頂きたい。

・聖体訪問時、神父が留守の場合の対応について→受付の人がいない限りは難しい。

● 宣教（井上、石井（悠））

・中高生会→聖書の分かち合いを土曜日の主日ミサ後、2、3カ月に1回のペースで行う。

・毎月の集まり（第3日曜日ミサ後）も行う

● 建物・営繕（福島）

・バザーの前に庭の草とりを行った。10月7日（予定）

● 福祉（中島）

・長い間教会で活動・奉仕していた人が施設に入られた場合、福祉としてどのように関わっていかけるのか話し合っている。

・ホームレスの方への支援のお米のお金が不足してきた。

● 行事（森脇）

・バザー券を23日から販売する。

● 広報（今井） 原稿の依頼

● 信徒の会（小野）

・ガーデンパーティの報告、今後の検討課題→飲食有料化等について。

● 連絡、討議事項

・教会巡礼→常時事務をする人などがいないので、指定の時間がないと対応は難しい。避難ドアを聖堂に直接作ることによって常時開放できるのではないか検討してほしい（小林神父）

（次回委員会 10月14日）

以上

教会からのお知らせ

● 訃報

エリザベト 小野イクさん

9月12日に帰天されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます

（総務グループ）



上野委員長のコラム

1. バザー券の一等賞品の本数増加について

バザー委員会において、本年のバザー券の一等賞品は三千円（商品券）八本とすることになりました。たのでお知らせ致します。

2. バザー前日、当日の手伝いのお願い

10月28日（日）は恒例のバザーです。信者の皆さんの高齢化傾向もあって手伝い下さる方の確保が困難になってきています。両日のお手伝いを宜しくお願ひ致します。